

平成 12 年度イタリアンライグラス優良品種選定試験

堀川 大輔^{*}・榎堀 善文

^{*}農業技術センター

要 約

イタリアンライグラス 12 品種の特性を比較した。気温は、冬期から 4 月まではほぼ平年並みで、5 月はかなり高かった。降水量は、冬季は平年並で、春期はやや少なく、5 月はかなり多かった。

極早生群 出穂始期は顕著な差がなかった。乾物収量はミナミアオバが多かった。倒伏にはどの品種も強かった。

早生群 出穂始期はタチムシャがやや遅かった。乾物収量は 1 番草ではタチマサリがやや多く、2 番草ではワセアオバがやや多かった。倒伏はどの品種も強かった。

中・晩生群 出穂始期はアキアオバがやや遅かった。乾物収量は 1 番草ではジャイアント、2 番草ではナガハヒカリが最も多かった。倒伏にはアキアオバが強かった。再生はどの品種も良好であった。

緒 言

本県に適するイタリアンライグラス優良品種の選定を行う。

試験方法

1. 試験期間

昭和 57 年より継続、
比較品種は原則として 3 年間。

2. 圃場

当場内
(標高 349m、年平均気温 13.1℃)

3. 供試品種

表 1 のとおり
本県奨励品種 8 品種、
対照品種 4 品種

表 1. 供試品種 (*は試験実施時の奈良県奨励品種)

早晩性	品種名	倍数性	供試年次		
			H10	H11	H12
極早生	ミナミアオバ*	2 倍体	○	○	○
	ウヅキアオバ*	2 倍体	○	○	○
	ワセフドウ	2 倍体		○	○
	ハヤドリ	2 倍体	○	○	
早生	ワセアオバ*	2 倍体	○	○	○
	タチマサリ*	2 倍体	○	○	○
	ニオウダチ*	2 倍体	○	○	○
	ハルタチ	2 倍体	○	○	
	ハルカゼ	2 倍体			○
	タチムシャ	2 倍体			○
	ジャイアント*	4 倍体	○	○	○
中・晩生	ナガハヒカリ*	4 倍体	○	○	○
	アキアオバ*	4 倍体	○	○	○
	トップ	4 倍体	○	○	○

4. 栽培方法

試験区：1区面積 6 m² (=3m×2m) 2反復乱塊配置

播種日：平成11年10月12日

播種量：2倍体品種 250g/a 4倍体品種 300g/a

播種法：散播

施肥量：厩肥 700 kg/a 苦土石灰 10 kg/a

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	(kg/a)
基肥	0.26	0.32	0.32	
追肥 (各刈取毎)	0.28	—	0.36	

刈取期：出穂期刈を基準とした。

5. 調査項目

「近畿・中国地域 牧草・飼料作物 品種・系統選抜試験実施に関する申し合わせ(昭和57年3月)」および「牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂2版)」に準じて調査した。

結果および考察

1. 生育調査(発芽～出穂前)

いずれの品種も発芽および初期生育は良好であった。耐寒性においても、いずれの品種も問題は無かった。しかし、中・晩成群の2番草で草丈の伸びにばらつきが見られた。

2. 生育調査(出穂～刈取)

具体的数字は表2-1、2-2のとおりである。

(概要)

a. 極早生群

出穂始期は顕著な差がなかった。倒伏はどの品種も強かった。

b. 早生群

出穂始期はタチムシャがやや遅かった。倒伏はどの品種も強かった。

c. 中・晩生群

出穂始期はアキアオバがやや遅かった。倒伏はアキアオバが他品種に比べ強かった。

再生はどの品種も良好であった。

表 2-1 生育調査 (1 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始期	刈取日	刈取時 出穂程度	刈取時 草丈	刈取時 倒伏程度	再生程度
		月/日	月/日	0～5 無～極多	cm	%	1～5 良～不良
極早生	ミナミアオバ	4/15	4/21	2.0	81.3	0%	1.0
	ウヅキアオバ	4/14	4/21	2.2	72.9	0%	1.0
	ワセフドウ	4/15	4/21	1.8	68.2	0%	1.0
早生	ワセアオバ	4/25	5/1	2.5	101.7	0%	1.0
	タチマサリ	4/24	5/1	3.0	99.1	0%	1.0
	ニオウダチ	4/25	5/1	2.8	94.6	0%	1.0
	ハルカゼ	4/24	5/1	2.8	88.0	5%	1.0
	タチムシャ	4/28	5/1	0.9	100.1	0%	1.0
中・晩生	ジャイアント	5/2	5/10	3.3	106.6	50%	1.0
	ナガハヒカリ	5/2	5/10	3.3	121.7	50%	1.0
	アキアオバ	5/6	5/10	1.8	113.4	13%	1.5
	トップ	5/1	5/10	3.5	105.7	55%	1.5

表 2-2 生育調査 (2 番草 出穂～刈取)

早晚性	品種名	出穂始期	刈取日	刈取時 出穂程度	刈取時 草丈	刈取時 倒伏程度
		月/日	月/日	0～5 無～極多	cm	%
早生	ワセアオバ	5/11	5/18	2.8	66.6	55%
	タチマサリ	5/10	5/18	3.0	64.1	60%
	ニオウダチ	5/10	5/18	3.0	58.9	60%
	ハルカゼ	5/11	5/18	2.5	51.9	50%
	タチムシャ	5/13	5/18	2.0	59.6	40%
中・晩生	ジャイアント	5/24	6/2	2.8	69.2	55%
	ナガハヒカリ	5/23	6/2	3.8	91.8	75%
	アキアオバ	5/26	6/2	3.4	82.6	68%
	トップ	5/24	6/2	3.3	65.0	65%

3. 収量調査

具体的数字は表3のとおりである。

(概要)

a. 極早生群

乾物収量はミナミアオバ(119kg/a)がやや多かった。

b. 早生群

乾物収量は1番草でタチマサリ(122kg/a)がやや多く、ニオウダチ(107kg/a)が最も少なかった。2番草ではワセアオバ(30kg/a)が多かった。1番草と2番草の乾物収量の合計ではワセアオバ(147kg/a)、タチマサリ(146kg/a)が多く、ニオウダチ(126kg/a)が最も少なかった。

c. 中・晩生群

乾物収量は1番草でジャイアント(220kg/a)が最も多く、アキアオバ(100kg/a)が最も少なかった。2番草ではナガハヒカリ(49kg/a)が多かった。1番草と2番草の乾物収量の合計でもジャイアント(250kg/a)が最も多く、アキアオバ(142kg/a)が最も少なかった。

表3 収量調査

早晩性	品種名	1番草		2番草		合計	
		生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a	生草収量 kg/a	乾物収量 kg/a
極早生	ミナミアオバ	657	119			657	119
	ウツキアオバ	599	97			599	97
	ワセフドウ	523	92			523	92
早生	ワセアオバ	657	117	216	30	873	147
	タチマサリ	748	122	176	24	924	146
	ニオウダチ	718	107	133	19	851	126
	ハルカゼ	600	111	156	22	756	133
	タチムシャ	849	118	148	19	997	137
中・晩生	ジャイアント	1140	220	233	30	1373	250
	ナガハヒカリ	777	108	438	49	1215	157
	アキアオバ	690	100	393	42	1083	142
	トップ	750	129	221	29	971	158

参考文献

近畿中国地域試験研究打合せ会議草地飼料作物部会：近畿・中国地域 牧草・飼料作物品種・系統選抜試験 実施に関する申し合わせ;2~5(1982)

農林水産技術会議事務局ほか：牧草系統適応性検定試験実施要領(改訂2版);5~7(1990)

堀川ら：奈畜研報第25号;51~56(1998)

堀川ら：奈畜研報第26号;63~67(1999)

堀川ら：奈畜研報第27号;35~38(2000)